

編修趣意書

教育基本法との対照表

※受理番号	学校	教科	種目	学年
104-170	小学校	国語科	書写	第1学年
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
38 光村	書写 108	しょしゃ 一ねん		

▶ 1. 編修の基本方針

みんなで書写を楽しもう。

タブレットの普及がどれだけ進んでも、手で文字を書くことには普遍的な価値があります。記録を取るために、気持ちを伝えるために、自分自身と向き合うために。字を書くことが得意な子どもそうではない子ども、書くことを楽しんでほしい。そして、文字の文化を次世代につないでほしい。そんな願いを込めて、私たちは、この教科書を編修しました。



特色

1

書く楽しさや達成感が感じられる

—「楽しい!」「おもしろい!」が、学ぶ意欲を高めます。

...

文字を書く楽しさや喜びを体感できるように、児童が主体的に取り組める言語活動を提示しました。また、学習の前後での自己の変容を実感し、達成感を感じられるように、学習内容を焦点化し、何を学び、何ができるようになったかが明確に分かる構成としました。



特色

2

「書く力」が、無理なく身につく

—「文字を上手に書きたい」という、児童の願いに応えます。

...

書写要素を精選し、6年間で無理なく身につけられるよう、発達段階に応じて段階的・系統的に教材を配列しました。また、児童が主体的に課題発見・課題解決ができるように学習の流れを明確にし、場面や状況に応じて適切に書く能力を育むことをめざしました。



特色

3

学んだことが、日常に生きる

—「書写は何に生かせるのだろうか?」という疑問に答えます。

...

児童が必然性をもって学習できるよう、日常生活とのつながりを実感できるような学習活動を豊富に設定しました。さらに、書写で身につけた力が国語や他教科、日常生活でも生きて働くよう、教材化を工夫し、書写で学習したことを実感できる構成にしました。

特色

1

書く楽しさや達成感が感じられる

— 「楽しい!」「おもしろい!」が、学ぶ意欲を高めます。



学習ページ

主体的に取り組める言語活動を提示しました。

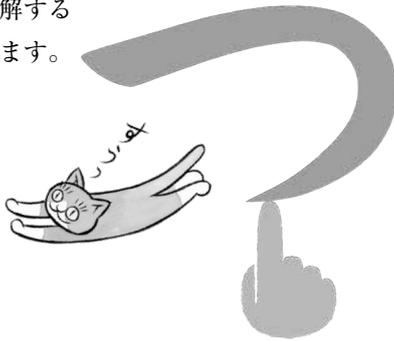
- ・低学年を中心に、なぞり書きや空書きなど、体感を通して理解を深める教材を積極的に取り入れました。思わずやってみたくなる、体を動かしてみたくなる。そんな活動がいっぱいです。

なぞり書き

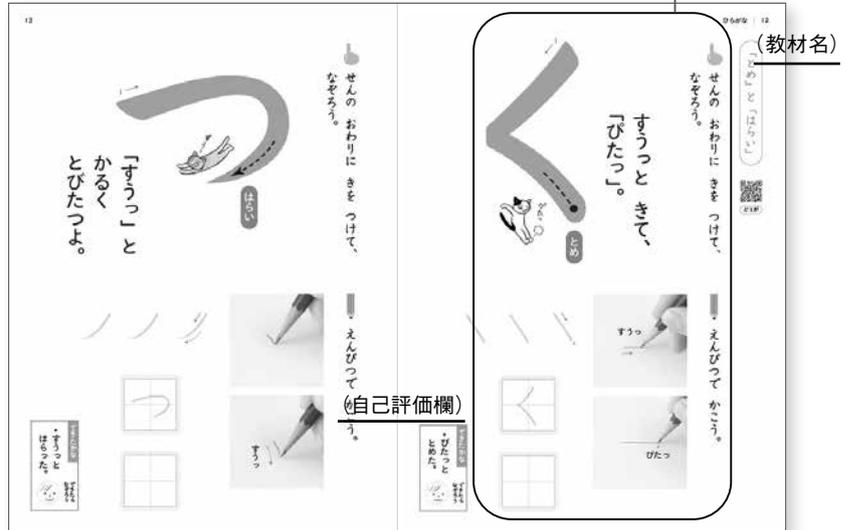
- ・文字を指でなぞって筆使いを確認する教材。児童の指にフィットするなぞり書き用の文字を作りました。

動物キャラクター

- ・キャラクターの動きや擬態語・擬音語を活用して、直感的に筆使いを理解することができます。



(解説) 整え方のポイントを、イラスト、写真、解説文を用いて示しました。



p.12-13『とめ』と『はらい』



学習ページ

何を、どう学ぶかが、分かりやすい構成です。

- ・教材単位で学習が完結する、1教材1単元構成を採用。「何を学ぶか」「何ができるようになったか」が分かりやすいよう、教材名=書写の学習要素とし、全教材に自己評価欄(第1学年は「できたかな」)を設けました。

特色

2

「書く力」が、無理なく身につく

— 「文字を上手に書きたい」という、児童の願いに応えます。



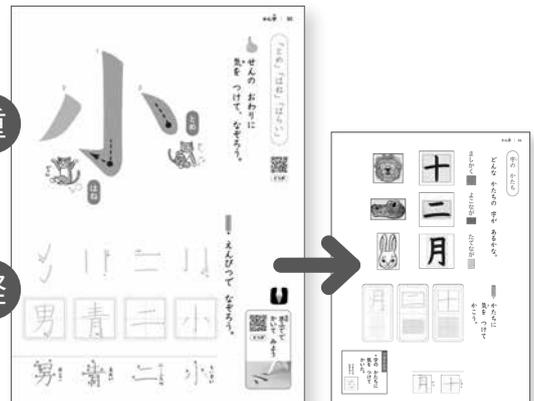
学習ページ

スモールステップで、着実に書く力を育みます。

- ・各教材を、見開きまたは1ページ構成とし、シンプルで分かりやすい紙面を実現しました。スモールステップを積み重ねることで、着実に基礎・基本を身につけることができます。
- ・いちばん大事なことを大きく、その他の事例は小さく扱うなど、情報に軽重をつけました。
- ・具体的な内容(筆使いなど)から抽象的内容(外形など)へと、段階的に教材を配列しました。

重

軽



p.30『とめ』『はね』『はらい』

p.36「字のかたち」

✓ 「じをかくしせい」「えんぴつのもちかた」

姿勢・筆記具の持ち方を、繰り返し確認することができます。

- 各学年の巻頭に、姿勢と筆記具の持ち方を確認する場を設け、繰り返し定着を図れるよう工夫しました。特に、硬筆の入門期である第1学年には十分な時数を配当し、入念に確認できるよう配慮しました。

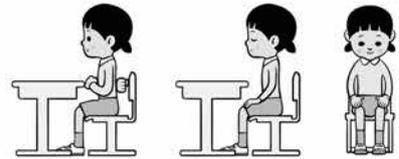
かみをおさえて
さあ
かこう



おなかとせなかに
ぐうひとつ

せなかは
びん

あしは
べったん



p.6-7「じをかくしせい」

唱え歌

- 姿勢や筆記具の持ち方のポイントを確認する「唱え歌」を作成しました。

もてたかな
じょうずに
きちんと
まくら
なかくゆび
たおして
すうつと

もちあげて
えんぴつ
つまんで



p.8-9「えんぴつのもちかた」

左利き児童への配慮

- 左利き児童の学びやすさを考え、左手で書くときの手の位置を示した写真を掲載しました。
- 左利き児童用の教科書紙面や動画を、二次元コードから読み取れる教科書連動コンテンツとして用意しました。

特色

3

学んだことが、日常に生きる

—「書写は何に生かせるのだろうか?」という疑問に答えます。

✓ 「しよしゃすたーとぶっく」

日常とのつながりを実感できる教材が豊富です。

- 児童が書写学習に親しみをもち、文字を書く意欲を喚起できるよう、教材として提示する語句や文章は、児童の日常生活や他教科の学習内容から幅広く取り上げました。



p.1「じぶんのなまえをかこう。」

p.2-3「もじたんけんたい」

しよしゃ
ひろげたい



✓ 「しよしゃひろげたい」

他教科との連動教材を用意。

- 書写での学習を他教科に生かす橋渡しとなる教材を、各学年に設けました。



p.24「よこがきのかきかた」

✓ 「しよしゃ ひろげたい」

国語教科書と連動させて学習することができます。

- ・国語教科書と連動できる教材を、各学年に設定しました。国語と一体的に扱うことで、学習活動に必然性が生まれ、単元全体の配当時数にも余裕が生まれます。

しよしゃ
ひろげたい



p.22-23「好きなこと、なにあい」



p.20-21「ことば」

✓ 「ことば」

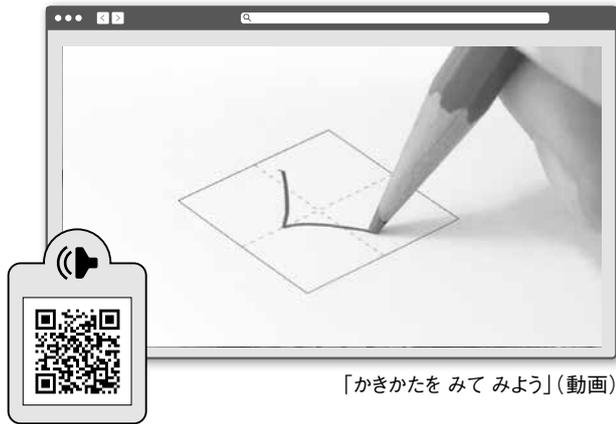
言葉の美しさを味わう教材を新設。

- ・各学年に、新教材「ことば」を設けました。書写で学んだことを生かして、日常の言葉や物語、短歌・俳句を書いて味わう教材です。

▶ 2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
(全体)	<ul style="list-style-type: none"> ・書写学習によって幅広い知識と教養を身につけるために、知的好奇心を刺激し、興味・関心をもって学習できるような教材を設定しました。【第1号】 ・全編を通して男女の平等に配慮し、写真やイラスト等に学習上の偏りがないように留意しました。【第3号】 	全体
▶ しよしゃ すたーと ぶっく	<ul style="list-style-type: none"> ・児童にとって最も身近な名前を書く活動からスタートすることで、名前に愛着をもち、個人の価値を尊重する態度を養えるよう工夫しました。【第2号】 ・学習のはじめに書写体操を、学習の終わりに整理体操（おもに、タブレットを使った後に行うことを想定）を導入し、書写が身体を使って書く技能学習でもあることを意識させ、健やかな身体を養えるよう配慮しました。【第1号】 ・身体に負担のかからない姿勢・鉛筆の持ち方が身につくよう教材化を工夫し、健やかな身体を養えるよう配慮しました。【第1号】 ・姿勢・鉛筆の持ち方について、左手で書くときの写真を掲載し、左利き児童用の教科書紙面を教科書連動コンテンツとして用意するなど、左利き児童の学びやすさにも配慮しました。【第3号】 	p.1 p.4-5 p.6-9
▶ ひらがな	<ul style="list-style-type: none"> ・平仮名の書き方を習得できるよう、指なぞり用の文字、解説文、イラスト、写真を用いて教材化を工夫し、文字を正しく整えて書くための幅広い知識と教養を身につけられるよう配慮しました。【第1号】 ・主体的な学習活動を通して、判断力や真理を求める態度を養えるよう、各教材のリード文は児童自らが考え課題を発見できるような表現にしました。【第1号】 ・硬筆教材の言葉は、書写の学習要素を押さえるとともに、児童の豊かな情操を培い、道徳心や健やかな身体の育成につながるよう、選定に配慮しました。【第1号】 ・他教科や日常生活とのつながりを実感できる教材を随所に設定し、書写の学びを日常に生かし、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるよう配慮しました。【第3号】 ・イラストや教材の題材に、児童に身近な動物や自然を取り入れることにより、生命を尊び、自然を大切する態度を養えるよう配慮しました。【第4号】 	p.12-27
▶ かたかな	<ul style="list-style-type: none"> ・片仮名の書き方を習得できるよう、指なぞり用文字やイラストを用いて教材化を工夫し、文字を正しく整えて書くための幅広い知識と教養を身につけられるよう配慮しました。【第1号】 	p.28-29
▶ かん字	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の書き方を習得できるよう、なぞり書きに加えて水書用筆を用いた活動を設定し、文字を正しく整えて書くための幅広い知識と教養を身につけられるよう配慮しました。【第1号】 ・イラストや教材の題材に、児童に身近な動物や自然を取り入れることにより、生命を尊び、自然を大切する態度を養えるよう配慮しました。【第4号】 ・漢字の成り立ちを取り上げ、文字文化への関心が高まるよう工夫しました。【第5号】 	p.30-36 p.37
▶ まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・書き初めの由来や、地域に根づいた書き初め文化を紹介することで、日本の伝統文化への関心が高まるよう工夫しました。【第5号】 ・入学時に書いた名前と比べて自分の成長を確かめる活動を通して、児童それぞれにさまざまな気づきがあることを知り、友達どうして学習成果を認め合い、お互いを尊重しながら創造性を養うことができるよう、構成にも配慮しました。【第2号】 	p.38-39 p.40-41

▶ 3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色



「かきかたをみてみよう」(動画)

学習上の参考に供するための資料

- ・教科書紙面に、「二次元コード (QRコード)」がある教材では、タブレットを使って、筆使いを確かめる動画やアニメーション等のさまざまな資料を見ることができます。
- ・さらに、家庭との連携の観点から、新しい生活様式やSDGs、防災に関わることなど、他教科や日常生活に関連するコンテンツを併せて用意しました。



「かきじゅんのひみつ」(アニメーション)



「SDGsについて考えてみよう」(動画)

特別支援教育への配慮

ユニバーサルデザイン・カラーユニバーサルデザインの観点から、全ての生徒に使いやすい教科書をめざしました。教科書の全ページについて、専門家の校閲を受けています。

学習支援上の配慮

- ・特別支援教育の専門家による全ページの校閲を受け、情報を精選し、大切なことがひと目で分かる、すっきりとしたレイアウトを実現しました。特別に支援が必要な児童にとっても、混乱が生じにくく学びやすい紙面です。

色覚特性への配慮

- ・カラーユニバーサルデザインの専門家による厳しい校閲を受け、文字や図表などに複数の色を用いるときは、だれもが明確に識別できる色の組み合わせになるよう配慮しました。

書体に関する配慮

- ・読みやすさを考慮して独自に開発した、オリジナルの教科書体を使用しています。
- ・単元名・教材名や「たいせつ」には、読みやすさと見やすさを追求したユニバーサルデザイン書体を用いました。



色の組み合わせ例 (p.15「かきじゅん」)



教科書体



UD書体
(ユニバーサルデザイン)



手書き文字

編修趣意書

学習指導要領との対照表、配当授業時数表

※受理番号	学校	教科	種目	学年
104-170	小学校	国語科	書写	第1学年
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
38 光村	書写 108	しょしゃ 一ねん		

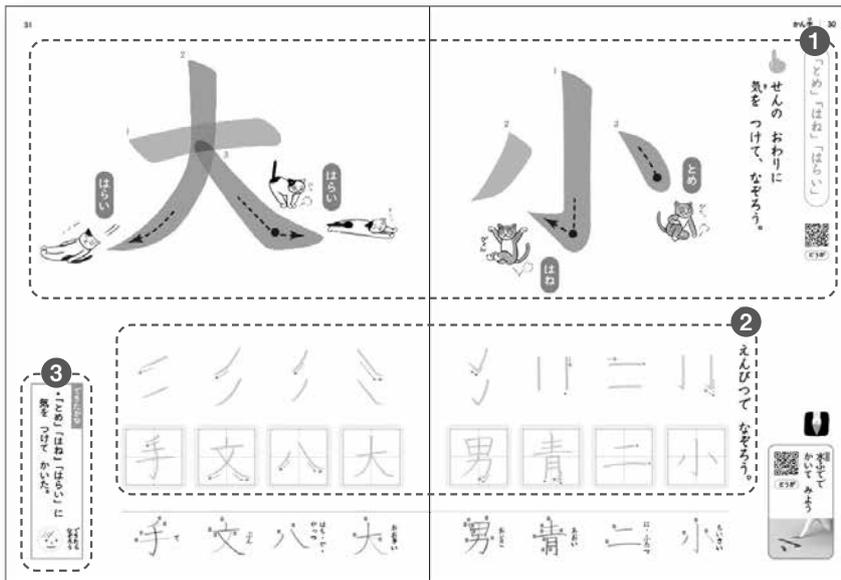
▶ 1. 編修上特に意を用いた点や特色

特色 1 学習の流れが、分かりやすい。
 — 「学びやすい、教えやすい教科書」をめざしました。

「文字の整え方」を学び、日常に生かすことができる構成です。

✓ いろいろな文字に応用できる「書く力」を育む

・各教材は、課題解決型学習を想定して構成しました。課題発見から解決までのプロセスを通して、書写の原理・原則を主体的に学び取ると同時に、思考力・判断力・表現力を養えるよう配慮しました。



1 導入・理解

観察や比較を通して、
原理・原則を発見し、確認する。
[教材名・課題]

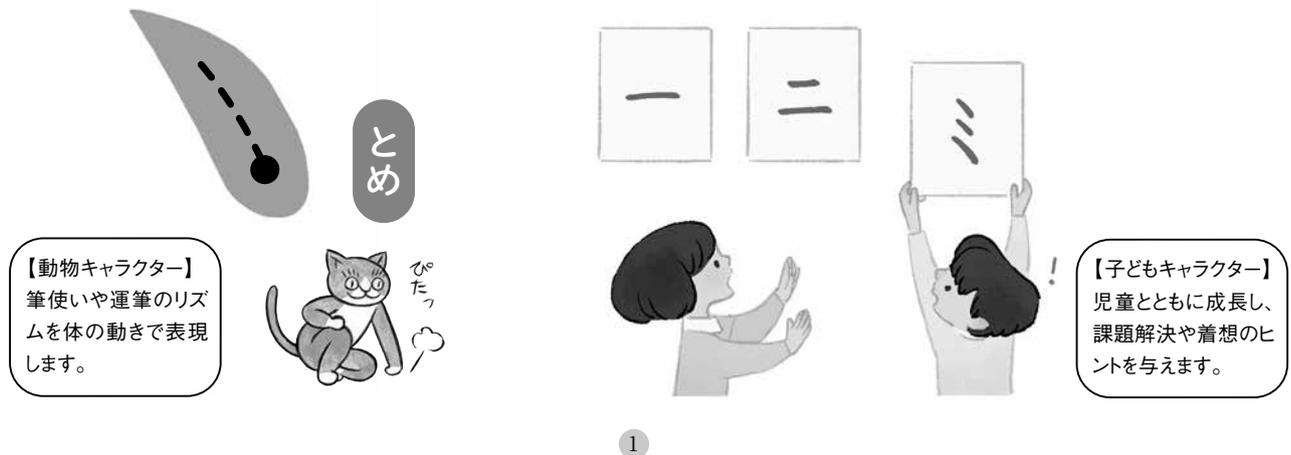
2 確認

書いて原理・原則を確かめ、
技能を習得する。

3 活用

日常の文字に生かす
手がかりとする。
[できたかな]

p.30-31「『とめ』『はね』『はらい』」



特色 2 「しよしゃ すたーとぶっく」の新設。

— 書写学習をスタートする教材群をまとめました。

✓ 入門期における基本教材を網羅

- ・新設した「書写スタートブック」では、巻頭の「書写の約束」を含め、書写学習の基本となる内容をまとめて掲載しました。また、「文字探険隊」や「色々な線を書こう」など、楽しく親しみやすい教材を適宜設け、書写学習に主体的に向かう姿勢が形成されるよう工夫しました。



巻頭「しよしゃの やくそく」
p.1-11「しよしゃ すたーとぶっく」

特色 3 「みずふでで かいて みよう」

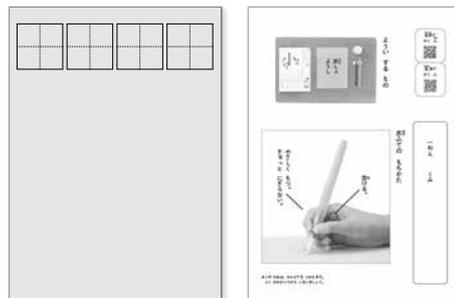
— 「とめ・はね・はらい」を、何度でも体感することができます。

✓ 学習指導要領の「点画の書き方」に対応

- ・「水筆で書いてみよう」を設けて、水書用筆等で書く活動を取り入れました。第1学年では、おもに終筆の筆使いを体感し、第2学年では、水書用筆を生かした漢字学習の活動を掲載しました。第1学年と第2学年の巻末に、それぞれ「水書用紙」を用意しました。



p.27「みずふでで かいて みよう」



「水書用紙」表・裏

✓ 水書用紙

第1・2学年それぞれに収録しました。

特色

4

「しよしゃ たいそう」で書くための体づくり

— 正しい姿勢・筆記具の持ち方を実現するために。

「せいり たいそう」を新設

- ・全教科の基礎である姿勢・筆記具の持ち方が学習習慣として定着するよう、スポーツ科学の専門家の監修による「書写体操」を作りました。さらに、授業の最後に行う「整理体操」を組み合わせることで、児童の健康保持・増進を促します。



p.4-5 「しよしゃ たいそう」

せいり たいそう

じゅぎょうの
さいごに
やってみよう。



どうが



特色

5

その他のポイント

— すべての児童にとって使いやすく、分かりやすい教科書のために。

理解がぐっと深まる 豊富な資料

- ・教科書紙面に「二次元コード (QR コード)」がある教材では、スマートフォンやタブレットを使って、筆使いを確かめる動画などのさまざまな資料を見ることができます。また、タブレットを使う姿勢を掲載しました。



しゃしん



どうが



どうが (アニメーション)



p.7「たぶれっとをつかう しせい」

特別支援教育の観点による、専門家の指導・校閲

- ・特別支援教育の専門家による全ページの校閲を受け、情報を精選し、大切なことがひと目で分かる、すっきりとしたレイアウトを実現しました。特別に支援が必要な児童にとっても、混乱が生じにくく学びやすい紙面です。
- ・カラーユニバーサルデザインの専門家による厳しい校閲を受け、文字や図表などに複数の色を用いるときは、どれもが明確に識別できる色の組み合わせになるよう配慮しました。
- ・読みやすさを考慮して独自に開発した、オリジナルの教科書体を使用しています。
- ・単元名・教材名や、「たいせつ」には、読みやすさと見やすさを追求したユニバーサルデザイン書体を用いました。

[第 1 学年]

編集上の留意点	
1 教育基本法・学習指導要領への対応	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 書写の学習を通して幅広い知識・教養を身につけるとともに、書写で培った「正しく整えて文字を書く力」を他教科や日常の言語生活で生かす態度を育成できるよう配慮しました。 ◆ 知識・技能を習得し、課題解決を行う過程で、「思考力・判断力・表現力」や「学びに向かう力」など、「生きる力」を支える能力を養えるよう配慮しました。 ◆ 学習指導要領に示された「我が国の言語文化に関する事項」の「書写」の指導を全て網羅できるように単元・教材を作成しました。 ◆ 点画の書き方を繰り返し練習し、適切に運筆する能力を向上させる教材として、「水筆で書いてみよう」(p.27)を設け、巻末に「水書用紙」を用意しました。
2 内容と系統	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 低・中・高の各学年段階で求められる「書く力」を確実に身につけられるよう、基礎的・基本的な知識・技能を系統的に位置づけ、習得と活用を繰り返しながら螺旋的に高められるよう工夫しました。
3 配分・配列	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 教材は、1教材1目標とし、その教材で扱う要素を焦点化することで、学習のねらいが明確になり、効果的に力をつけられるよう配慮しました。 ◆ 各教材は、①導入・理解(原理・原則の発見)→②確認(書いて原理・原則を確かめる)→③活用(日常の文字に生かす・振り返り)という展開が、ひと目で分かる構成にしました。
4 主体的・対話的で深い学びへの対応	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 主体的に学習に取り組めるように、なぞり書きや空書きなど、体感を通して理解を深める教材を積極的に取り入れました。 ◆ 学年の最後に成長したことを友達どうしで確かめる活動(p.41)を設定するなど、対話を通して学習を深められるよう配慮しました。
5 教材の選定	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 硬筆教材には、学習指導要領の「学年別漢字配当表」に準拠しつつ、部分の形の統一が図られた、小学生にとって学びやすい文字を採用しました。書写の基礎・基本を押さえるのに適しているだけでなく、「国語科書写」として、児童の感性を高められるすぐれた言葉や文章を選びました。
6 地域性への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 地域の書き初め展や書き初めに関わる行事、漢字の成り立ちを掲示するなど、伝統的な言語文化への理解を深められるよう配慮しました。
7 他教科・日常生活・伝統文化等との関連	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 各学年に国語との関連教材を設け、言語活動(話すこと・聞くこと/書くこと)を通して、日常生活に生きて働く書写の知識・技能を習得できるよう工夫しました。 ◆ 生活科との関連教材を設けるなど、教科横断的な学習が充実するよう配慮しました。 ◆ 書き初め教材を設置し、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献するための素地を培えるよう配慮しました。
8 情報活用・ICT活用	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 教科書紙面に「二次元コード(QRコード)」がある教材には、学習の参考となる豊富な資料を用意しました。スマートフォンやタブレットを使って資料を見ることで、家庭でも、豊かな文字文化について語り合うことができるよう工夫しました。 ◆ タブレットを使う際の姿勢写真を全学年に掲載し、正しい姿勢・持ち方ができるよう配慮しました。
9 製本・印刷・活字など	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 環境への配慮から、再生紙・植物油インキを用いています。 ◆ 強度が高く、鉛筆で書きやすい用紙を開発し、採用しました。 ◆ 針金を3か所に施した中綴じ製本で、長期の使用に耐えられるよう配慮しました。 ◆ 字詰め・行詰めは、生徒の発達段階や可読性を考慮し、読みやすくデザインしています。
10 特別支援教育への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 学習上支援が必要な生徒のために、またユニバーサルデザインに対応した教科書作りという観点から、特に以下の点に配慮しています。 <ul style="list-style-type: none"> ・すべての児童が学習に集中できるよう、大切なことがひと目でわかる、すっきりとした紙面構成を実現しました。 ・複数の色を組み合わせたときには、色覚の多様性に配慮し、誰もが識別できる配色を採用しました。
11 幼・保・小の連携	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 書写の学習を楽しくスタートできるよう、1年の第1教材に入る前に、「しよしゃ すたーとぶっく」を設けました。扉ページには、児童が身近に感じる自分の名前を書く活動を位置づけ、書写学習への意欲が高められるよう配慮しました。
12 今日的な課題への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 教科書に登場する児童の写真・イラストについては、感染症の流行に応じた配慮を促すなど、「新しい生活様式」を考慮した内容を設けました。 ◆ 文字の読みやすさ、色覚多様性、ジェンダーの平等、環境保全などの観点から、教科書全体を通して、SDGsの達成に向けて、教材化に取り組みました。

▶ 2. 対照表

[第 1 学年]

図書の構成・内容		学習指導要領の内容			該当頁	配 当 時 数
		知識及び技能		その他の指導事項		
		(3) ウの事項	(1) の事項			
しよしゃの やくそく		(ア)			表2	適宜
しよしゃ すたーと ぶっく	もじ たんけんたい	(イ)			2-3	適宜
	しよしゃ たいそう	(ア)			4-5	適宜
	じを かく しせい	(ア)			6-7	2～3
	えんぴつの もちかた	(ア)			8-9	
	いろいろな せんを かこう	(イ)			10-11	
ひらがな	「とめ」と「はらい」	(イ)	ウ		12-13	2
	「はね」／かきじゆん	(イ)	ウ		14-15	2
	「まがり」と「おれ」	(イ)	ウ		16-17	2
	「むすび」／じの かたち	(イ)	ウ		18-19	2
	ことば	(イ)	ウ		20-21	1
	しよしゃ ひろげたい① 〈こくご〉	(イ)	ウ	B(1) ウ・エ (2) ア・イ	22-23	1
	しよしゃ ひろげたい② 〈せいかつ〉	(イ)	ウ	B(1) ウ・エ (2) ア	24	適宜
	こんな ことは ないかな	(イ)	ウ		25	適宜
	にて いる ひらがな	(イ)	ウ		26	1～2
	みずふでで かいて みよう	(イ)	ウ・エ	内容の取扱い カ(エ)	27	適宜
ひらがな あつまれ	(イ)	ウ		42-43	1	
かたかな	かたかなの かきかた	(イ)	ウ		28-29	2
	かたかな あつまれ	(イ)	ウ		44-45	1
かん字	「とめ」「はね」「はらい」	(イ)	エ		30-31	2
	「おれ」「まがり」「そり」	(イ)	エ		32	2
	かきじゆん	(イ)	ウ・エ		33	1
	にて いる かん字と かたかな	(イ)・(ウ)	ウ・エ		34-35	2～3
	字の かたち	(イ)	エ		36	
	かん字 しらべたい	(イ)	エ		37	適宜
まとめ	かきぞめ／一年生の まとめ	(ア)・(イ)・(ウ)	ウ・エ	B(1) ウ・エ (2) ア	38-41	6～8
	空に 大きく かこう	(イ)	エ		48	適宜
しりょう	一年生で ならう かん字 (80字)	(イ)・(ウ)	エ		46-47	適宜
					合計時数	30～35